

平成30年度 まちづくり月間関連国土交通大臣表彰

1. 第7回 まちづくり法人国土交通大臣表彰
2. 第13回 まち交大賞
3. 第2回 コンパクトシティ大賞
4. 第13回 住まいのまちなみコンクール
5. 第20回 まちの活性化・都市デザイン競技

<問い合わせ先>

【まちづくり法人国土交通大臣表彰】

国土交通省 都市局 まちづくり推進課 TEL 03-5253-8407
<http://www.mlit.go.jp/>

【まち交大賞】

まちづくり情報交流協議会 事務局（一財）都市みらい推進機構 TEL 03-5261-5625
<http://www.machikou-net.org/>

【コンパクトシティ大賞】

（公財）都市計画協会 TEL 03-3262-3491
<http://www.tokeikyou.or.jp/>

【住まいのまちなみコンクール】

（一財）住宅生産振興財団内 住まいのまちなみコンクール事務局 TEL 03-5733-6733
<http://www.machinami.or.jp>

【まちの活性化・都市デザイン競技】

（公財）都市づくりパブリックデザインセンター TEL 03-6912-0799
<http://www.udc.or.jp/activities/design/>

第7回まちづくり法人国土交通大臣表彰

「まちづくり法人表彰」は、地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるまちづくり法人が中心となった先進的な取組を奨励・普及するため、地方公共団体や関係団体の協力の下、平成24年度に創設された国土交通大臣表彰制度です。

主催：国土交通省

共催：(公財) 区画整理促進機構、(一財) 国土技術研究センター、(公社) 全国市街地再開発協会、(公財) 都市計画協会、(独) 都市再生機構、(公財) 都市づくりパブリックデザインセンター、(一財) 都市みらい推進機構、(一財) 民間都市開発推進機構

表彰の対象

都市の課題を解決する先進的な取組を行っているまちづくり法人（まちづくりの推進を図る活動を行うことを目的とする会社、特定非営利活動法人、一般社団法人（公益社団法人含む）及び一般財団法人（公益財団法人含む））等

審査

応募資料をもとに、学識経験者等からなる審査委員会による審査を行った上で、選定いたします。審査においては、①先導性、②公益性、③多様性、④継続性、⑤効果の視点により評価を行います。

〈 国土交通大臣賞 〉

表彰対象者	所在地	活動概要
特定非営利活動法人 AKITEN	東京都 八王子市	商店街の活性化を図るため、地域の事業者や各種クリエイターとの連携によって、八王子駅周辺を中心市街地において、空きテナントの新たな活用方法の提案やクリエイターの育成活動、市内産業の再生活動などの活性化事業に取り組んでいます。

〈 審査委員長賞 〉

表彰対象者	所在地	活動概要
特定非営利活動法人 小樽民家再生プロジェクト	北海道 小樽市	小樽への移住希望者に対して、古民家を中心とした空き家情報を提供するほか、移住者と市民の交流の場の提供を行い、古民家を背景としたまちなみの保存、まちの活性化に取り組んでいます。
特定非営利活動法人 都市住宅とまちづくり研究会	東京都 千代田区	住民主体の共同建て替えやコーポラティブハウス事業などにより、住まいを核としたまちづくりに取り組んでいます。東日本大震災発生後は、宮城県東松島市において復興事業の支援を行っています。
特定非営利活動法人 まちづくりスポット	岐阜県 高山市	誰でも気軽にまちづくりに参画する機会を創出するため、交流スペース「まちスポ飛騨高山」を活動拠点として、市民活動の情報発信や地場産物や手作り小物を販売するマルシェを行うほか、若者が集まる交流会など様々な取組を行っています。

※ 第7回まちづくり法人国土交通大臣表彰における詳細については、別途プレスリリースの【第7回まちづくり法人国土交通大臣表彰】受賞者の決定をご参照ください。

第13回まち交大賞

1. まち交大賞について

まち交大賞は、都市再生整備計画に基づくまちづくりにおいて、優良な計画が策定され、また事業の実施、評価、改善において優れた取り組みを行った地区などを対象として表彰し、関係者の栄誉をたたえるとともに、受賞地区の事例を全国に幅広く紹介することで、地域の創意工夫を活かしたまちづくりを促進することを目的として実施するものである。

2. 主催・後援

主催：まちづくり情報交流協議会、(一財)都市みらい推進機構

後援：国土交通省

3. 実施方法

全国の市区町村から応募のあった地区の中から、受賞地区を選定する。

【対象地区】

I. 完了地区

平成28年度までに都市再生整備計画事業が完了した地区

II. 計画地区

平成29年度において都市再生整備計画事業を実施中の地区

【審査委員会】第1回：平成30年3月8日(木)

第2回：平成30年4月19日(木)

委員長 高橋洋二 東京海洋大学名誉教授

【表彰】平成30年6月まちづくり月間中央行事 他

4. 表彰

I. 完了地区

①国土交通大臣賞（1地区）

地域の創意工夫を活かしたまちづくりの取り組みがなされ、都市再生整備計画の策定、事業の実施、事業の評価等において優れた地区で、全国の都市・地域再生のモデルとして特に優秀な地区

②まちづくり達成大賞（まちづくり情報交流協議会会長賞 1地区）

まち交大賞地区に次いで、上記の観点から優秀な地区

③まちづくり効果賞（2地区程度）

地域の創意工夫を活かしたまちづくりの取り組みがなされ、都市再生整備計画の策定、事業の実施、事業の評価等において特徴があり、優れた地区

II. 計画地区

①創意工夫大賞（都市みらい推進機構理事長賞 1地区）

都市再生整備計画において、テーマの設定、まちづくりのアイデア、計画策定のプロセスの3つの観点から特に優秀な地区

②まちづくりシナリオ賞（2地区程度）

都市再生整備計画において、テーマの設定、まちづくりのアイデア、計画策定のプロセスの3つの観点から特徴があり、優秀な地区

第 13 回まち交大賞 受賞地区一覧

賞	地区名	受賞者	概 要
国土交通大臣賞	砂沼周辺地区	茨城県 下妻市	まちづくりの積年の課題を解決する、拠点施設（にぎわい広場「Waiwai ドームしもつま」・地域交流センター「わいわいハウス」、観光交流センター「さん歩の駅カ・sunさぬま」）を整備し、市民協働で行った各種ワークショップで市民参加と担い手育成を目指し、官学連携のプレイメイキング手法の導入で整備効果を促進し、公民連携による施設の設計・施工・管理運営を実施。産官学連携した多様な主体による街づくりの推進体制が整った。
まちづくり達成大賞 (まちづくり情報 交流協議会会長賞)	滝沢村役場 周辺地区	岩手県 滝沢市	さまざまな活動が複合化され、一つの拠点で実施することで、人と人、人と文化、人とまちが交流し、賑わいが生まれるプロジェクト「みんなでつくるふれあいの大屋根」⇒ビッグルーフ滝沢（交流拠点複合施設）を中心とした、地域を活性化させるためのまちづくりを実施。市の中心部としての都市機能の集約により、地域のみんがが主体となった活動が盛んに行われ、経済も循環することで持続していくまちづくりを構築した。
創意工夫大賞 (都市みらい推進 機構理事長賞)	JR 境港駅前 地区	鳥取県 境港市	年間 200 万人以上が訪れる水木しげるロードのリニューアル事業。歩道設置されたブロンズ像を見るために多くの来訪者が訪れ、生活道路自体が観光地化していたが、狭い歩道や、通過型の観光が課題であり、住民や関係者（有識者、商工関係、地元自治会・商店街、福祉関係等）が一体となり、「妖怪」の魅力を堪能できる世界で唯一の道を目指し、道路の 1 車線化、一方通行化による歩道の拡幅、全線にわたる演出照明等を実施した。
まちづくり 効果賞	新船岡地区	宮城県 柴田町	伊達家家臣の城下町であった当地区は、歴史的な街並を残しながら地域経済の中心として市街地が形成されてきた。居城跡である船岡城址公園は、県内で唯一「日本さくら名所 100 選」に選ばれている観光拠点となっている。住民との協働により施設更新や回遊拠点の整備を進め自然を体感して楽しみながら歩きたくなる都市空間を創出してにぎわいの再生に取り組んだ。
	恵庭駅西口 地区	北海道 恵庭市	土地区画整理事業と有料老人ホーム、医療モール、駐車・輪場、保育園、商業施設をコアとする市街地再開発事業との一体的施行および、駅舎と再開発ビルを結ぶ空中歩廊、自転車駐輪場、駅前広場整備などの整備を同時期に行うことで、駅へのアクセス性の向上と交通結節点機能の強化、都市機能の集約を同時に進めることが可能となり、効率的に安全性、利便性の高いコンパクトなまちづくりを実現した。
まちづくり シナリオ賞	中条駅西口 周辺地区	新潟県 胎内市	駅周辺整備により、鉄道で分断されたまちを一体化し、既存ストック・まちの機能の連繋によりオリジナルの魅力を創出。東西自由通路の建設による中条駅周辺地域の一体的整備と市域道路や公共施設の整備により総合的に新しいまちづくりを進め、住む人が安心・快適に暮らせる、人にやさしい魅力あるまちの形成を目指す。
	粟津温泉 地区	石川県 小松市	平成 24 年に廃業した温泉街の中心に位置する老舗旅館跡地について、住民や観光協会、旅館関係者が一体となった「跡地活用会議」において交流広場と位置付け、温泉街周辺と街なかの回遊拠点として、地元主体のイベント開催や、目で見て楽しめる演出を行うことで、温泉街の賑わい再生や周辺の活性化につなげるまちづくりを展開。

第2回 コンパクトシティ大賞

1. コンパクトシティ大賞について

取り組みの後押しが急務となっているコンパクトシティ政策について、国土交通省においては各省連携のもとコンパクトシティ形成支援チームを立ち上げ、「健康」「子育て」「稼ぐ力」等の都市が直面する課題・テーマに対して、立地適正化計画及びその他の施策(他省庁の施策を含む)をうまく組み合わせたモデルとなる取り組みの普及を推進しています。

このような国土交通省の取り組みと連携し、コンパクトシティ実現に向けて他の都市のモデルとなる都市を表彰することにより、取り組みを支援するものです。

2. 主催・後援

主 催：まちづくり月間全国的行事実行委員会、公益財団法人都市計画協会

後 援：国土交通省

3. 実施概要

全国の市区町村のうち応募のあった都市の中から、受賞都市を決定します。

【対象都市】

立地適正化計画及びその他の施策を組み合わせるコンパクトシティの形成に取り組む市区町村

【募集時期】

平成 29 年 10 月～平成 30 年 1 月 15 日

【今回の応募都市数】

4 都市

【選考委員】

座 長 岸井 隆幸 (日本大学理工学部土木工学科 教授)

委 員 中井 検裕 (東京工業大学環境・社会理工学院 教授)

村木 美貴 (千葉大学大学院工学研究科 教授)

吉田 樹 (福島大学人文社会学群経済経営学類 准教授)

宇野 善昌 (国土交通省都市局都市計画課 課長)

平岡 孝夫 ((公財)都市計画協会 業務執行理事)

平成 30 年 2 月 16 日 (金) に選考委員会を開催し、表彰対象都市を選定しました。

【表彰】

平成 30 年 6 月 15 日 (金) 「まちづくりと景観を考える全国大会」

4. 第2回のテーマ

地域公共交通

5. 表彰

① 国土交通大臣表彰 (1 点)

…富山市

② まちづくり月間全国的行事実行委員会会長表彰 (1 点) …岐阜市

第2回コンパクトシティ大賞 表彰対象都市

●国土交通大臣表彰：富山市（富山県）

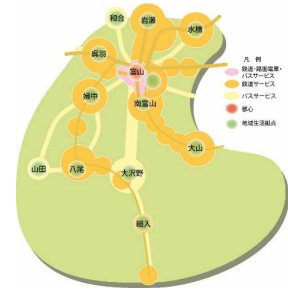
富山市は、人口減少や少子高齢社会の進行などに対応した持続可能なまちづくりが必要と考え、①公共交通の活性化②公共交通沿線地区への居住推進③中心市街地の活性化を施策の三本柱として、「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を進めています。

公共交通の活性化については、国内初の本格的 LRT である富山ライトレールの整備や、地域が主体となってルートやダイヤ等を決定して運行する「地域自主運行バス」への支援を行ってきたほか、現在、富山駅の北側と南側を走る路面電車を新幹線高架下で接続する「路面電車南北接続事業」を進めており、南側の路面電車が富山駅高架下に入り入れる第 1 期区間が、平成 27 年 3 月の北陸新幹線開業にあわせ運行が開始されました。

これらの取り組みの結果、富山駅高架下乗り入れ後の路面電車の利用者は乗り入れ前に比べ約 1 割増加し、公共交通全体でも、「公共交通 1 日平均利用者数の富山市人口あたりの割合」は 13.7%（平成 26 年度実績）から 15.1%（平成 28 年度実績）へと増加しています。

また、昨年 10 月には、LRT 区間において、自動車の通行を規制し歩行者と路面電車（LRT）のみが通行できるトランジットモール社会実験を国内で初めて実施するなど、公共交通の活性化施策とともに、移動の目的地となる街の魅力を向上させる取り組みも行っています。

今後ともコンパクトなまちづくりを軸として、教育や文化、福祉、医療なども含めた包括的な施策を着実に展開し、都市の総合力を高め、市民が質の高い生活を享受する、すなわち QOL (Quality of Life) の向上を目指していきたいと考えています。



富山市が目指すお団子と串の都市構造概念



路面電車の富山駅高架下乗り入れ



LRT 区間でのトランジットモール

●まちづくり月間全国的行事実行委員会会長表彰：

岐阜市（岐阜県）

本市では、平成 15 年度に策定した「岐阜市総合計画」に「多様な地域核のある都市」を将来像と掲げ、人口減少や少子化・高齢化などの社会現象の変化に対応するため、集約型都市構造への転換を図り、公共交通と連携した持続可能なまちづくりを目指してきました。

平成 28 年度に策定した岐阜市立地適正化計画では、幹線バス路線などの公共交通軸沿線の市街化区域約 57%を居住誘導区域に設定し、居住や都市機能の維持・誘導を図るとともに、岐阜駅北口駅前広場を核に岐阜市型 BRT の導入による幹線バス路線の強化や市内 19 地区で運行するコミュニティバスとの連携など地域公共交通と一体となったまちづくりを推進しています。

現在は、公共交通のほか、子育てや福祉部局などに横展開を図り、様々な分野と連携した誘導施策の立案・実施のため、立地適正化計画推進委員会を組織し、健康で快適な生活が確保された持続可能なまちづくりの実現に向け、様々な取り組みを進めています。



岐阜駅北口駅前広場の様子



連節バス運行の様子（岐阜市型 BRT）

第13回 住まいのまちなみコンクール

1. 住まいのまちなみコンクールについて

人口減少社会の中、まちの価値の落ちない、選ばれる地域づくりが求められています。「住まいのまちなみ」は、地域の方々が積極的に維持管理、運営することで、豊かな暮らしの場へと育まれていきます。また、高齢化や防災・防犯、低炭素化などの社会的課題に対応しながら、多世代がともにまちの価値を守り育て、住み継ぐことができるまちとしていくことが大切です。このためには、地域の管理や交流活動のほか、空家の利活用等による地域の活性化、新たな入居者の受け入れを含むコミュニティの形成など、多様な取り組みが必要となります。

このコンクールでは、地域の特性を活かし、魅力的な住まいのまちなみを育む維持管理、運営などの活動に実績を挙げている住民組織をまちづくりのモデルとして表彰し、支援します。

2. 主催・後援

[主 催] まちづくり月間全国的行事実行委員会、(一財)住宅生産振興財団、
(一社)すまいづくりまちづくりセンター連合会

[後 援] 国土交通省、(独)住宅金融支援機構、(独)都市再生機構、
(一社)住宅生産団体連合会、(公社)日本建築士会連合会、
(一社)日本建築士事務所協会連合会、(一財)ハウジング・アンド・コミュニティ財団

3. 事業実施経緯

[応募期間] 平成29年5月1日～平成29年8月31日

[審 査] 第1回 平成29年9月25日
第2回 平成29年12月11日

[審査委員]

委員長 藤本 昌也 (建築家/ (公社)日本建築士会連合会名誉会長)
委員 上山 良子 (ランドスケープアーキテクト/長岡造形大学名誉教授・前学長)
大月 敏雄 (東京大学教授)
齊木 崇人 (神戸芸術工科大学学長)
廣瀬 隆正 (国土交通省大臣官房技術審議官)
眞鍋 純 (国土交通省大臣官房審議官)
森 まゆみ (作家・編集者) (五十音順/敬称略)

[発 表] 平成30年1月

[表 彰] 平成30年6月15日(金)「まちづくりと景観を考える全国大会」

4. 審査結果

国土交通大臣賞・・・1団体

- 押沢台北ブラブラまつり実行委員会（高蔵寺ニュータウン押沢台北地区）
（愛知県春日井市）

住まいのまちなみ賞・・・4団体

- おひさまのまち花ヶ浦街づくり組合（おひさまのまち花ヶ浦地区）（福岡県糟屋郡粕屋町）
- 豊中市永楽荘桜自治会（豊中市永楽荘3丁目、4丁目地区）（大阪府豊中市）
- 本町地区歴史的建造物を活かしたまちづくり推進協議会（江津本町地区）（島根県江津市）
- レイクタウン美環の杜管理組合（레이크タウン美環の杜地区）（埼玉県越谷市）

国土交通大臣賞

押沢台北ブラブラまつり実行委員会（高蔵寺ニュータウン押沢台北地区）
（愛知県春日井市）

UR都市機構による公団時代初期のニュータウンで、約40年前に入居が始まりました。高齢化等によるまちの衰退を懸念し、住民の呼び掛けによって2012年から始まったのが「ブラブラまつり」です。このお祭りは、まち全体を使い各々の家を主役にしようとするもので、庭先や駐車場などを自分流に飾り付け、カフェやギャラリーなどの交流の場として開放し、互いに訪問しあうことで、にぎわいのある開かれたまちなみづくりが行われています。個々人の特技を生かし、全員参加で活気のある日常生活を取り戻そうとする新しい取り組みが高く評価されました。



第20回 まちの活性化・都市デザイン競技

1. 主 旨

これからのまちづくりにおいては、そこに生活し活動していることの豊かさが実感でき、誇りのもてる優れた景観を備えた環境整備が重要です。現代の活動にふさわしい新たな都市景観の形成には、まちの歴史や環境に配慮しながら、その都市固有の品格を備え洗練された表現と演出が求められ、そしてその魅力が都市に活力を呼び戻し、新たな賑わいを伴って、まち全体が活性化していくことが期待されます。こうしたまちづくりの基本的課題を踏まえ、本「まちの活性化・都市デザイン競技」は、地域にふさわしい整備構想とまちのデザインについての提案を広く一般から募り、まちづくりに対する国民の関心を高めるとともに、まちづくりの企画・デザイン技術の向上、活力ある美しい景観を備えたまちづくりの実現に寄与することを目的に平成10年度より毎年実施しているものです。

2. 競技対象地区

競技の対象地区は、全国公募に応募された候補地の中から、千葉県松戸市の「松戸駅周辺地区」（約48ha）を選定しました。

3. 競技課題

松戸市の玄関口である松戸駅周辺の都市機能の更新に合わせ、既存の地域資源を活かしながら、“ひと”の回遊性・滞留性を生み出し、新たな街の魅力を創出することで、賑わいの中にも風格のある都市となるようなランドスケープデザインや様々なアイデアの提案を募集しました。

4. 応募作品数

競技へのエントリーが60グループあり、最終的に提出された応募作品数は37作品でした。

5. 主催・後援

- (1) 主 催 : まちづくり月間全国的行事実行委員会
(公財) 都市づくりパブリックデザインセンター
- (2) 後 援 : 国土交通省、松戸市

6. 競技実施経緯

- (1) 応募登録期間 : 平成29年 9月 4日 (月) ~10月 2日 (月)
- (2) 作品提出期間 : 平成30年 2月27日 (火) 締切
- (3) 審 査 : 平成30年 3月27日 (火)
- (4) 表 彰 : 平成30年 6月15日 (金) 「すまい・るホール」 (住宅金融支援機構内)

7. 審査委員

- 委員長 : 西 村 幸 夫 (東京大学教授)
- 委 員 : 石 川 幹 子 (中央大学教授)
- 岸 井 隆 幸 (日本大学教授)
- 高 見 公 雄 (法政大学教授)
- 藤 本 昌 也 (建築家)
- 徳 永 幸 久 (国土交通省都市局市街地整備課長)
- 本郷谷 健 次 (松戸市長)

(順不同)

8. 審査結果

審査の結果、次の通り各賞が選定されました。

- 国土交通大臣賞 (1点)・・・株式会社久米設計 (久野 恭平 ほか 5名)
- まちづくり月間全国的行事実行委員会会長賞 (1点)・・・大成建設株式会社 (石田 武 ほか 9名)
- (公財) 都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞 (1点)・・・社会環境設計室 (金城 正紀)
- 奨励賞 (2点)・・・戸田建設株式会社 (加藤 千尋 ほか 8名)
- ・・・千葉大学大学院園芸学研究科 (亀井 優樹 ほか 3名)
- 松戸市長特別賞 (1点)・・・東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻
地域デザイン研究室+都市デザイン研究室 (新妻 直人 ほか4名)

国土交通大臣賞 受賞作品

Green Neighborhood Matsudo ~ヒト×チエ×マチをつなぐコンパクトな郊外都市モデル~
久野 恭平 他5名 (株式会社久米設計)